

【基調講演】 第1部

種田元晴 TANEDA motoharu

1982年東京都生まれ。2005年法政大学工学部建築学科卒業、2012年同大学院博士後期課程修了。専門は建築設計、近代建築史。現在、種田建築研究所。法政大学、東洋大学、日本大学、桜美林大学非常勤講師。博士(工学)、一級建築士。2016年『立原道造の夢みた建築』(鹿島出版会)刊行。

第2部

鼎談
油やプロジェクト

第2部は種田氏に加え、現在進行中の文化磁場油や「隠れ家プロジェクト」に関わっている建築家・広瀬毅+NPO法人油やプロジェクト理事長・斎藤尚宏も加わり、未来志向の「芸術家コロニー」構想を語り合います。

広瀬毅

HIROSE takeshi

1961年石川県金沢市生まれ。1985年横浜国立大学工学部建築学科卒業、1998年～広瀬毅建築設計室、一級建築士、日本建築家協会会員、長野県建築士会会員、長野県建築士会長野支部まちづくり委員会委員長受賞歴／1991第4回長野市都市景観賞、2001松之山町自然科学館「森の学校」実施提案設計協議佳作、2004トステム第16回全国フロント施工コンテスト銅賞。2018年度油や「隠れ家プロジェクト」に参画。

斎藤尚宏

SAITO naohiro

詩人であり建築家であった立原道造の東大の卒論「浅間山麓に位する芸術家コロニーの建築群」に共感し、50才を契機に銀行を早期退職して浅間山麓に開いた古書店「追分コロニー」番頭。堀辰雄・立原道造・加藤周一などの文人・知識人多数と縁のあった歴史ある旅館「油屋」解体の危機に際し2013年その文化的再生をめざしてNPO法人油やプロジェクトを立ち上げ現在その理事長を努めて牽引する。

進行・コーディネート ナカムラジン

美術家、ARTProject沙庭代表。2016年「追分ビエンナーレ」運営にたずさわり、その後その発展をめざして立原道造の「芸術家コロニー構想」に着目、再解釈して新しいアートの表現ステージとしての「隠れ家プロジェクト」を提案する。

立原道造の「芸術家コロニー」を語る

80年以上前に、信濃追分の地で構想された「芸術家コロニー」とは？

夭折の抒情詩人・立原道造は建築家でもありました。東京に育ちながら、山岳の避暑地を好んだ立原は、浅間山麓に魅了されます。詩に、建築に、信濃追分での村ぐらしの楽しみを繰り返し描きました。この度は、そんな立原が自身の建築のひとつ到達点として信濃追分に夢みた、壮大な芸術家コロニー構想の魅力をご紹介します。

浅間山麓談義

10
27
土

会場／信濃追分文化磁場「油や」ギャラリー
開始時間／午後二時から
お問い合わせ／「油や」帳場

0267-31-6511



*図版提供：立原道造記念会

信濃追分文化磁場

KARUIZAWA SHINANOWAKE CULTURE SPACE ABURAYA



Takeshi Hirose Architect & Associates



2016年、油やに縁のある作家さんたちに協力を仰ぎ、「第一回追分ビエンナーレ」というアートイベントを開催しました。ギャラリーのような箱モノの空間を飛び出して油やの敷地全体や、軽井沢追分界隈を包む独特な磁場の中でアート表現ができたらと考えたわけです。 参加いただいた作家の皆さんとともに手探し、手弁当でやつてみた第一回目。そして2年後の2018年、その貴重な経験を踏まえて、現在全国的な地域起こし型ビエンナーレ形式のアートイベントの乱立傾向の中で、より追分らしい第二回目をどのように迎えようかと考えるようになりました。 「追分オリジナル」の思索の始まりです。

そうした経緯を経て今回あらためて着目したのが、詩人であり建築家の立原道造の卒業設計「浅間山麓に位する芸術家コロニーの建築群」です。立原道造が師の室生犀星や堀辰雄を通して知った浅間山麓信濃追分の風景に寄り添い考察されたもの。若き昭和の詩人が自然豊かな山岳・田園的磁場力を背景に構想した芸術家（美術・文学・音楽など）村から発信されたであろう理念を、時空を超えたまさにその地で現代の作家たちが再解釈し、今の文化・芸術を創造・発信していくべきだろうかと考えました。 具体的には、立原道造の残したスケッチ「Lodge & Cottages」にある建築群（コロニー）の核を旧駿本陣、元旅館の「油や」と捉え、その周辺に小規模な衛星建築を数年計画で配置していく計画です。 立原道造は「建築群」のエスキースとは別に「ピアシンスハウス」という小屋のスケッチも残しています。そのイメージがこの小規模建築＝「小さな小屋の衛星」というわけです。おそらくひとが居住可能なギリギリの空間。一棟ごとに建築・デザインに個性を持たせ、一定の機能は保ちながらもよりアーティスティックな造形性の高さも目指したいところです。

「油や」の敷地内には、昭和の時代に、夏場勉強のために滞在し、多くの学生が利用した小さなバングラローが存在したそうです。 平成の最終年代に立ち上がりうとする「新バングラロー」の中で現代人は何を思い何を創造していくのでしょうか。もちろん独り籠つても生まれ出さない時間を過ごす…といったのもありかもしれません。 いずれにしても立原道造の構想より八〇年後、その場所で「浅間山麓に位する芸術家コロニーの建築群」の実現に一步でも近づけたら幸いです。

隠れ家プロジェクト



「隠れ家プロジェクト」は、アート・クラフトなど職人的な仕事に携わる人、またフリーで仕事を請け負う人などが、都会から浅間山麓を訪問し滞在して時間や場所に制限を受けず、インスピレーションを得ながら自由に時間を過ごす、創作活動を行うことを提案するというモデル事業です。地域の賑わいを文化的活動で創出する発展性ある試みと考えています。

「小さな小屋」の設置には大きな資金が必要ですが、実現すれば、多くの人に「油や」に来ていただき、本・アート・音楽などの作品展示を楽しみながら、小屋のなかで心豊かな時間を過ごす体験ができます。

<http://aburaya-project.com/>

特定非営利活動法人油やプロジェクト○信濃追分文化磁場「油や」○〒389-0115 長野県北佐久郡軽井沢町追分 607